

1 日 時 平成23年 11月18日 (金)

2 学年・組

3 場 所

4 単元名 「少年の日の思い出」

5 単元について

○教材観

少年時代にちょう集めへの熱情から取り返しのつかない「過ち」を犯してしまう主人公の「少年」。ものの考え方や感じ方が異なる隣家の少年エーミールとの間での、また主人公自身の、心の揺れ、葛藤、心情の変化が見事に描かれた作品である。語り手が代わる後半部分からは、ちょうやエーミールへの関わり、心情の変化が描かれており、読み取る学習に適している。また、時間や場面の変化が明快で、構成もつかみやすい。さらに、「盗みを犯す」という行為の前後で「少年」の心情や行動が大きく変化しており、短編ながら内面的な変化が非常に大きくかつとらえやすい作品である。

本教材では、同年代の少年が主人公におかれている。これは、本教材への親近感を増し、話の中に引き入れやすい性質といえる。登場人物の少なさも比較的長編（教材として）となっている本教材の読解への抵抗感を少なくしており、中学一年生の読み取り教材として、内容を把握しやすくなっている。

物事に熱中してしまうと周りが見えなくなる。周りが見えなくなると思わぬ失敗をしてしまう。若いときには特に、こういう経験を犯しやすいものなのかもしれない。過ちを全く犯さない人間は本当に少数であろう。小説と自分自身を重ねて考え、見方や考え方を広めて成長に役立てる。本教材はこのような価値も備えている。

○生徒観

明るく積極的で、挙手・発言が多い学級である。男女ともに国語の学習にも意欲的で、学習課題に対して真剣に取り組もうとする。しかしその反面、発問に対する反応は速いが、思いこみや語彙の解釈だけで内容をとらえたり、叙述から離れて主観的な狭い読み取りに陥り、時には一人の生徒の解釈に全体が引きずられてしまったりすることも見られる。

学級の中には、文章の読み取りが苦手な理解力がともなわない生徒や、国語の学習に意欲が持てない生徒もおり、個人差が大きい。授業を進めていく上でも、そうした子どもへの配慮や指導の手立てが必要となる。

○指導観

学習に対して意欲的に取り組む学級の雰囲気大切にしながら、主体的に考え、活発に発言させたい。自分が読み取った人物の心情を、語彙や叙述を根拠として積極的に語らせ、それを交流し合いながらさらに自分の見方・考え方を深めさせたい。その際、ワークシートを使って、本文中のことばから少年の気持ちを考えさせる。

教師の発問や働きかけを厳選し、生徒たちの思考の広がりを妨げることのないよう配慮するとともに、補助発問を用意し、読みの方向性を示しながら学習を導いていきたい。生徒が活発に意見交換しながら、自分たちの力で読みが深まっていくことを体験的に学び、文学を読むことの面白さや新しい読みの視点を見出していく喜びを味わわせたい。

努力を要する生徒に関しては、「やばい」「びみょう」など曖昧な言葉や話し言葉でしか表現できない生徒については、明確に表現できる言葉を見つけられるように支援する。

6 単元の目標

- ・少年の行動に注目して少年の心情を読み取ろうとしている（関心・意欲・態度）
- ・少年の行動の描写に注意して読み、内容の理解に役立てる（読むこと（1）ウ）
- ・事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（ウ））

7 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
少年の行動に注目して少年の心情を読み取ろうとしている。	少年の行動の描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができる。	事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつ。

		その時間の目標	学習活動	関・意・態	読む能力	知識理解	
1次	第1時	自分をみつめる 「少年の日の思い出」	・作品を通読し感想をもつ。	ワークシートを利用し、印象に残った箇所の本文を囲み、理由を書く。	○		
	第2時		・作品の構成をとらえる。	過去と現在で前半と後半に分かれていることや、登場人物の確認を行い、前半の「客」が後半の「僕」であり語り手になっていることを理解する。		○	
	第3時		・ちょう集めに熱中する僕の様子を読み取る。	・ちょう集めに熱中する様子がわかる表現を抜き出し、		○	
	第4時		・エーミールの人物像を読み取る。	・エーミールの人柄を表している部分を明らかにした上で、人物像を考える。		○	○
	第5時(本時)		・ちょうを手に入れた直後の時間の流れを表す言葉をもとに、それぞれの場面での少年の気持ちの変化を読み取る。	・ワークシートを使い、少年の気持ちを読み取る上で根拠となる表現を抜き出す。 ・グループ活動で交流し、他者の意見を参考にしながら自分の考えを明確にする。		○	○
	第6時		・僕のエーミールに対する気持ちを踏まえ、僕がエーミールにわかってほしかったことについて考える。	・僕のエーミールに対する気持ちがわかる表現を抜き出す。 ・グループで交流を行うことで僕の思いに深く迫っていく。		○	○
	第7時		・僕がちょうを押しつぶしてしまった理由について考える。	・僕がなぜ自分の収集したちょうをつぶしたのか、文中の表現に即してグループで話し合いを行い、発表する。		○	○

8 第2時

(1) 本時のねらい

ちょうを手に入れた直後の時間の流れを表す言葉をもとに、それぞれの場面での少年の気持ちの変化を読み取る。

(2) 本時の評価基準

評価規準	十分満足できると判断できる基準	概ね満足できると判断できる基準	努力を要する生徒への手立て
文中の表現を根拠にしてそれぞれの場面での少年の気持ちを読み取っている。	文中の表現を根拠にしてそれぞれの場面での少年の気持ちを一般化した言葉で表現できる。	文中の表現を根拠にしてそれぞれの場面での少年の気持ちを読み取っている。	「やばい」などの曖昧な言葉や話し言葉、短い言葉になっていない生徒に対しては、具体的にどのような気持ちなのかを再度考えさせるような声掛けを行う。

(3) 準備物

教科書 ワークシート ホワイトボード カードマジック マグネット

(4) 指導過程

	主な発問・指示	学習活動	教師の指導と評価
導入	1 今日後半の第()場面です。少年がちょうを手に入れた直後の気持ちの変化を読み取ります。 2 主な登場人物はだれでしたか。	○本時の学習目標と取り扱う場面を示す。 ・「僕」「エーミール」	どうやって評価するか
発展	3 僕とエーミールの間で何があったかに気をつけて読みなさい。 4 どういう事件が起きますか 5 僕が「ちょう」を手に入れたときどんな気持ちでしたか。 6 「大きな満足感」をみちびいたのは何ですか。 7 僕の気持ちの変化に気をつけて読みなさい。 8 僕の気持ちが変わっていくことを示す3つのことばはどれですか。	○音読し、中心事件を明らかにする。 ・「僕」が「エーミール」のクジャクヤママユを盗む。 ○ちょうを手に入れたときの、僕の気持ちを読み取る。 ・「大きな満足感」 ・「クジャクヤママユの不思議な4つの斑点」 ○少年がちょうを手に入れた直後の、気持ちの変化を読み取る ・「その瞬間」「突然」「同時に」	・ ・ ・ ・ ・ ・4人グループで話し合う時間を確保する。 ・3つのことばが小説を読む場合の着眼点になることを押さえる。
	ちょうを手に入れた直後の時間の流れを表す言葉をもとに、それぞれの場面での少年の気持ちを読み取る		
	9 「大きな満足感」直後に、僕はどんな気持ちになっていますか。 10 前に出て説明してください。 11 「その瞬間」の場面について同じことばを考えたグループはありますか。違うことばを考えたグループはありますか。(同様に行く)	「その瞬間」・・・えっ？ 何が起きたの？ やばい！ あせり 何が起きたが事態がつかめない 「突然」・・・下劣なやつだ もうダメだ後悔 「同時に」・・・不安 怖い びくびく ふるえがくる どうしよう	・1人で考える時間を十分とる。(ワークシート) ・4人グループで交流を行いながら自分の考えを持たせる。(朱ペンで記入)
12 僕の気持ちの変化がわかるようにホワイトボードを動かしてみよう。	・「その瞬間」は少し上の方(事態を把握する時間) 「突然」一気に下方へ落ちる。 「同時に」一番下まで落ちる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 文中の根拠を明確に自分の意見を相手に伝えている(言語力の目当て表から) </div> 読 文中の表現を根拠にして少年の気持ちをワークシートに記入している。 ・グループごとにカードに記入させ、黒板に貼ったホワイトボードに貼らせる。 ・理由を言いながら説明させる。 ・話し言葉になっているものや正しい日本語ではないものはその場で評価を入れる。 ・代表生徒1名を選び、前で動かせる。 ・他の生徒の反応を見ながら進める。	
まとめ	13 今日取り扱った場面は実際にどのくらいの時間がかかっていると思いますか。 14 今日は少年の気持ちが短時間に大きく変化したことと小説を読む場合の着眼点を学習しました。	○まとめ ・3分 5分などほんの数分間の出来事	・自由に発表させる。 ・気持ちが変わる場合の着眼点をしっかり押さえる。

(5) 板書計画

